

授業科目名	哲学 Philosophy	担当教員名	鈴木 祐丞
時間割	水曜日 5 時限	オフィスアワー	—
授業科目区分	教養科目—人間と社会		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2年次前期	単位数	2単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード 実存主義、宗教哲学、徳倫理学			
授業の到達目標及びテーマ 「存在肯定」という問題——自分の存在、自分のあり方、自分の生を肯定することができる／できないとは、どのようなことか——をめぐって、哲学者の思想などと向き合いつつ、他の受講生と対話しながら、実際に哲学する。			
授業の概要 授業全体を通じて、教員（鈴木）が、「存在肯定」というテーマをめぐって、哲学者たちの思想と向き合ったり、受講生と対話しながら、実際に哲学していく。まず、アリストテレスの『ニコマコス倫理学』の思想を土台にして、人間には一人一人「あるべきあり方（卓越性）」が存在するという考え方を形作り、それをめぐって批判的検討を行う。その上で、「承認」「働く意味」について「卓越性」と重ね合わせながら検討し、「存在肯定」の確保を試みる。次に、「存在肯定」という観点から「人生の意味」について宗教的次元も含めて考察し、いわば絶対的な「存在肯定」の可能性について考える。最後に、「人間にとって言語とは何か」「私」とは何か「意味・価値とは何か」などの問いについて検討することを通じ、「存在肯定」という問い（病気）から人間を解放（治療）する試みを行う。			
授業計画 第1回 授業についての説明／哲学とはどのような営みか／「存在肯定」の哲学への予備的考察 第2回 「卓越性」、「最高善」、「幸福」——アリストテレス『ニコマコス倫理学』の思想 第3回 「卓越性」、「最高善」、「幸福」——幸福について考える 第4回 「卓越性」と教育——ルソー『エミール』 第5回 「承認」——ホネットの承認論 第6回 「働く意味」(1)——資本主義的賃労働と物象化 第7回 「働く意味」(2)——マルクスの労働観 第8回 非宗教的次元での「人生の意味」(1)——「人生の意味」をめぐる諸思想 第9回 非宗教的次元での「人生の意味」(2)——ネーゲル「人生の意味」 第10回 宗教的次元での「人生の意味」へ——ハイデガー『存在と時間』 第11回 宗教的次元での「人生の意味」(1)——宗教がもたらす絶対的な「存在肯定」 第12回 宗教的次元での「人生の意味」(2)——なぜ(どのように)人間は宗教を信仰するか 第13回 「存在肯定」の問いからの解放の試み(1)——「言語」的存在としての人間 第14回 「存在肯定」の問いからの解放の試み(2)——「私」とは何か 第15回 「存在肯定」の問いからの解放の試み(3)——「意味・価値」をめぐる(ニーチェ的)考察 受講生には授業の集大成として「存在肯定」をテーマとした期末レポートを提出してもらう予定であり、各回の授業はそのための準備の場としての位置づけを持つ。なお、その一環として、授業を通じて理解し考えたことを、授業内レポートとして数回提出してもらう予定である。			
授業時間外の学習内容等 授業で用いる資料等を事前に読んでおくこと。			
評価方法 ・平常点(授業内レポートの内容(授業内容を理解した上で、自分の考えを展開できているか)、対話への貢献度、受講態度など) 70% ・期末レポート 30%			
履修上の注意 受講者数の多寡により授業の内容・形式を多少変更することがある。			
テキスト 使用しない。レジュメを配布する。			
参考書・参考資料等 適宜紹介する。			

授業科目名	法学（日本国憲法） Japanese Law	担当教員名	棟久 敬
時間割	木曜日 4 時限	オフィスアワー	—
授業科目区分	教養科目－人間と社会		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2 年次前期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード			
<p><b>授業の到達目標及びテーマ：</b>日本国憲法を中心とした現代法の基礎的理解。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・到達目標：①憲法上の基本的な諸概念を説明できる。</li> <li>②日本国憲法の基本的な条文の解釈を説明できる。</li> <li>③日本国憲法の基本的な条文の解釈を説明できる。</li> <li>④社会で生じている問題についての確に理解し、自分の力で考えることができる。</li> </ul>			
<p><b>授業の概要</b></p> <p>近代以降、憲法の最も重要な理念とされてきた立憲主義とは何なのか、現代ではどう理解されているのか、立憲主義に基づいて基本的人権や統治機構の仕組みに関する日本国憲法の各条文はどのように解釈されるべきであるか、また裁判所はどのように解釈しているのかについて、入門および一般教養としての解説を行う。</p>			
<p><b>授業計画</b></p> <p>第 1 回：講義の目標・構成  第 2 回：憲法とはどのような法か？  第 3 回：基本的人権はどのようにして生まれた？  第 4 回：人権はだれのもの？  第 5 回：個人の尊重・幸福追求権  第 6 回：平等とは？家族とは？  第 7 回：人身の自由と適正手続の保障  第 8 回：心の中の自由  第 9 回：表現の自由  第 10 回：教育を受ける権利と学校、学問の自由  第 11 回：経済活動の自由と社会権  第 12 回：国民主権と選挙の仕組み  第 13 回：国の統治の仕組み(1)国会と内閣  第 14 回：国の統治の仕組み(2)裁判所  第 15 回：地方政治のルールと仕組み  (期末試験)</p>			
授業時間外の学習内容等			
<p><b>評価方法</b></p> <p>期末試験の結果（80％）と学習態度（20％）によって評価し、総合 60％以上を合格とする。</p>			
<p><b>履修上の注意</b></p> <p>最も小型のものでよいから、「六法」を用意することが望ましい。</p>			
<p><b>テキスト</b></p> <p>初宿正典ほか『目で見える憲法〔第 5 版〕』（有斐閣）1600 円（税別）  『法学六法 '19』（信山社）1000 円（税別）</p>			
<p><b>参考書・参考資料等</b></p> <p>授業で適宜指示する</p>			



授業科目名	心理学 Psychology	担当教員名	宮野 素子
時間割	水曜日 2 時限	オフィスアワー	—
授業科目区分	教養科目－人間と社会		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2 年次前期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 特にありません			
授業に関連するキーワード 心理学、自己理解、他者理解			
授業の到達目標及びテーマ 心理学の各領域の基礎的な理論や用語を理解し、日常生活の中で人の行動あるいは自分自身の行動や経験について、心理学的な観点から見られるようになることを目標とします。			
授業の概要 この授業では心理学がどのような切り口で世界を捉えているのか、その観点と先行研究を紹介することを目的とします。心理学の領域を、心理学小史、心の生理的基盤、感覚、知覚、学習、記憶、感情、人格、発達、社会など横断的に紹介します。こういった心理学的視点を日常の生活に生かせるような事例を選んで、テーマにちなんだ資料等を適宜使用しながら進めてゆきます。			
授業計画 第 1 回 オリエンテーション、心理学ってどんな学問？…心理学小史 第 2 回 人は物をどのように見ているか…感覚と知覚の心理学 第 3 回 人は他者をどう見ているか？…対人認知の心理学 第 4 回 人はどのようにして他者を好きになるのか？…対人魅力の心理学 第 5 回 「私」はどのように成り立ってゆくのか？…自己認知をめぐる発達心理学 第 6 回 人はどのように記憶するのか？…記憶の心理学 第 7 回 人はどのように考えるのか？…問題解決の心理学 第 8 回 他者に自分を見せるとは？ ①…自己開示の心理学 第 9 回 他者に自分を見せるとは？ ②…自己呈示の心理学 第 10 回 自分や他者の性格とは？…人格の心理学 第 11 回 人を説得するとは？…コミュニケーションの心理学 第 12 回 こころの深層に何がある？…夢の心理学 第 13 回 ストレスに対処するには？…ストレスの心理学 第 14 回 こころの問題を解決するには？ ①…精神分析療法・来談者中心療法 第 15 回 こころの問題を解決するには？ ②…行動療法 定期試験			
授業時間外の学習内容等 授業中に配布する資料を読むことで授業への理解を深めてください。また、全講義の前半および後半に、それぞれ自分の理解度を振り返るための自習プリントを配布します。			
評価方法 定期試験 70%、授業に対する積極的態度（出席および毎回授業終了時に内容についての質問や考えたことなどを記入する出席票への記載状況、その他） 30%			
履修上の注意 特にありません			
テキスト 授業で使用するスライド資料等を配布します			
参考書・参考資料等 授業の中で適宜紹介します			

授業科目名	日本文学 Japanese Literature	担当教員 名	高橋 秀晴
時間割	木曜日 3時限	オフィスアワー	—
授業科目区分	教養科目－人間と社会		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2年次後期	単位数	2単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
<b>授業に関連するキーワード</b> 近代文学 太宰治 無頼派 戦時下			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 日本の近代文学を作品に現れた作家の問題意識を通して捉える。その作業により、人生の普遍的意味について考察することを目指す。なお、具体的到達点としては、以下の3点を想定している。 (1) 日本近代文学の基本的方向性について理解できる。 (2) 小説の読み方に関する基礎理論を理解できる。 (3) 太宰治作品の特徴が指摘できる。			
<b>授業の概要</b> 本講義では、太宰治『きりぎりす』に収録された作品について、受講者が分担発表し、質疑応答を通じて読みを深めてゆく。その際、必要な知識や理論については適宜紹介する。			
<b>授業計画</b> 第1回 文学という芸術形式の特徴、および教科書、講義形態、評価について説明する。 第2回 日本近代文学の流れを概説する。 第3回 太宰治の文学活動を概観する。 第4回 「燈籠」 … 私生活と創作活動の関連について考察する。 第5回 「姥捨」 … 作品に託されたメッセージについて考察する。 第6回 「黄金風景」 … 作中人物の証言の作為性について考察する。 第7回 「畜犬談」 … 作品の設定意図について考察する。 第8回 「おしゃれ童子」 … 作品に於ける事実と虚構の問題について考察する。 第9回 「皮膚と心」 … 女性一人称という語りの方針について分析する。 第10回 「鴉」 … 時代背景との関わりを中心に作品を解析する。 第11回 「善蔵を思う」 … 作中に潜在する不安について考察する。 第12回 「きりぎりす」 … 方法としての自己批判の意義を検証する。 第13回 「佐渡」 … 紀行文の特質について考察する。 第14回 「千代女」 … 作品の背後にある文学観について考察する。 第15回 全体を振り返って、太宰文学の特質と文学史上の意義についてまとめる。			
<b>授業時間外の学習内容等</b> 受講者は1人1作品を選んで10分前後のプレゼンをする。それについて質疑応答をするため、全員が当該作品を読んでおくことが要求される。			
<b>評価方法</b> ○発表内容（80%）と受講態度（20%）とによって総合的に判断する。			
<b>履修上の注意</b> ○講義外の幅広い読書・思索活動を強く期待する。			
<b>テキスト</b> ○太宰治『きりぎりす』（新潮文庫）			
<b>参考書・参考資料等</b> ○講義内で指示・配布する。			

授業科目名	国際関係論 International Relations	担当教員名	水野 智仁
時間割	金曜日 1 時限	オフィスアワー	—
授業科目区分	教養科目－人間と社会		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	2・3年次前期	単位数	2単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
<b>授業に関連するキーワード</b> 国際関係、国際政治、東アジア、日本			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 本科目は、我が国と東アジア近隣との歴史的関係を大まかに把握したうえで、今日の我が国を取り巻く東アジアの国際情勢及び諸問題について理解を深めることを目標とする。			
<b>授業の概要</b> 我が国と東アジア近隣諸国（中国、南北朝鮮）との関係は昨今良好とはいえぬ状況にあるが、彼我に介在する諸問題を考えるうえにおいて、過去の経緯というものを無視することはできない。そこで本講では、まず日中、日朝(韓)関係の歴史を概観したうえで、1990年代初頭から今日に至るまでの我が国と近隣諸国との関係のさまざまな側面について考察していきたい。			
<b>授業計画</b> 第1回 今日の東アジア世界 第2回 東アジア世界の伝統秩序と日本 第3回 近代日本の勃興と東アジア世界の変容 第4回 東アジアのなかの“帝国”日本 第5回 日中衝突（1）：満州事変への道 第6回 日中衝突（2）：日中戦争 第7回 冷戦期の日本と東アジアの国際関係 第8回 冷戦終結後の日本と東アジアの国際関係 第9回 歴史認識問題（1）：歴史教科書問題 第10回 歴史認識問題（2）：靖国神社参拝問題 第11回 歴史認識問題（3）：慰安婦・徴用工問題と日韓関係 第12回 領土問題 第13回 東アジアにおける各拡散問題 第14回 中国の台頭と東アジア、そして米国 第15回 日本と東アジア 最終回 期末課題			
<b>授業時間外の学習内容等</b> 授業中或いは事前に配布する資料や指定した文献を読むことで授業への理解を深める。			
<b>評価方法</b> 期末課題 70%、授業出席・参加 30%			
<b>履修上の注意</b> 日頃から、我が国の近隣諸国との関係に関する報道等に注意を払って欲しい。			
<b>テキスト</b> 適宜、複写したものを教材として配布する。			
<b>参考書・参考資料等</b> 川島真編『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007年）			

授業科目名	環境と生態 Environment and Ecology	担当教員名	蒔田 明史、片野 登
時間割	木曜日 4 時限	オフィスアワー	—
授業科目区分	教養科目—人間と社会		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	2・3 年次前期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
<b>授業に関連するキーワード</b> 自然の成り立ち・動態、生物の生活史、自然環境の現状・問題点、ヒトと自然との関わり			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 我々の生活は我々をとりまく様々な生き物たちの作り上げる自然を基盤に成り立っている。本講義では、自然の成り立ち、人類が自然に与えてきた影響、さらには、私たちが自然からどのような恩恵を受けているかを考える。それらをもとに、自然と人間との関係のあり方について考えられるようになって欲しい。			
<b>授業の概要</b> 人類の生命と生活は、我々を取り巻く多様な自然環境と、我々と共に生きている多くの生物の営みに支えられている。だから持続可能な社会を築いていくためにも、自然に関する理解は必要不可欠である。本講義では、まず、日本の自然の特徴を概観した後、森林環境や水環境などを素材として自然の成り立ちや生物の生活史特性・生物間相互作用など生態学の基礎を解説し、自然を”観る”ための素養を養っていく。その上で、人間が環境にどのような影響を与え、現在環境改善にどのように取り組んでいるかを学び、今後人類が自然とどのような関係性を築いていけばいいかを考えていく。			
<b>授業計画</b> 第 1 回 イントロダクション：生物学とは？生態学とは？“自然を観る”ってどんなこと？ (担当蒔田) 第 2 回 環境の観点からの世界史…イースター島の歴史の語ること (蒔田) 第 3 回 秋田の森林を歩く…日本の自然；秋田の自然の特徴は？ (蒔田) 第 4 回 花はなぜ美しい？…目立つ花 vs 目立たない花 (蒔田) 第 5 回 多様で気長な森の世界…ブナとササとネズミの微妙な関係 (蒔田) 第 6 回 DNA で自然を探る…見えない構造を観る！ (蒔田) 第 7 回 自然はなぜ大切か…天然記念物にみる自然の重要性 (蒔田) 第 8 回 地球環境問題 1…地球環境問題、地球温暖化 (片野) 第 9 回 地球環境問題 2…大気循環、オゾン層の破壊 (片野) 第 10 回 地球環境問題 3…森林の喪失、砂漠化 (片野) 第 11 回 地球環境問題 4…海洋の汚染、地球環境問題への取り組み (片野) 第 12 回 秋田の気候と風土について (片野) 第 13 回 秋田の水環境 1：田沢湖の水質改善 (片野) 第 14 回 秋田の水環境 2：八郎湖の水質汚濁 (片野) 第 15 回 秋田の水環境 3：秋田県 47 年の水質の変化 (片野) (定期試験)			
<b>授業時間外の学習内容等</b> 毎回講義資料を配付するので、配布資料を熟読し、毎回の講義内容を十分に理解しておくこと。不定期に小テストを行うので、そのための準備をしておくこと。			
<b>評価方法</b> 受講態度（講義時間中の小テスト・小レポートを含む） 10%：定期試験 90%			
<b>履修上の注意</b> 問題意識をもって、講義に取り組み、積極的に発言して欲しい			
<b>テキスト</b> 適宜プリントを配布し、参考図書を提示する。			
<b>参考書・参考資料等</b> 「緑の世界史 上・下」C・ポンティング（朝日選書）；「秋田の森林を歩く」蒔田明史（無明舎出版）；「日本の水環境 2 東北編」日本水環境学会編（技報堂）			

授業科目名	文芸特論 Advanced Literature	担当教員名	大八木 敦彦
時間割	金曜日 2 時限	オフィスアワー	
授業科目区分	教養科目－人間と社会		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	2・3 年次後期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 文芸作品の鑑賞をおこないながら、言語表現について論じ、美術や音楽における創造活動と複合した、総合的な芸術表現の可能性を探る。			
<b>授業の概要</b> 詩、小説、戯曲、批評等、さまざまなジャンルの作品を鑑賞して、文芸への理解を深めながら、芸術活動における言語表現の実際について論じる。			
<b>授業計画</b> 第 1 回 言葉の世界 (1) 第 2 回 言葉の世界 (2) 第 3 回 詩歌 (1) 第 4 回 詩歌 (2) 第 5 回 詩歌 (3) 第 6 回 小説とファンタジー (1) 第 7 回 小説とファンタジー (2) 第 8 回 小説とファンタジー (3) 第 9 回 戯曲 第 10 回 批評 第 11 回 現代における文芸の意義 (1) 第 12 回 現代における文芸の意義 (2) 第 13 回 文芸の様々なスタイル 第 14 回 言語表現の可能性と未来 (1) 第 15 回 言語表現の可能性と未来 (2)			
授業時間外の学習内容等			
<b>評価方法</b> 授業態度 (50%)、レポート等提出物 (50%) で総合的に評価する。			
<b>履修上の注意</b> 毎回、文芸作品を相当量読みこなして、創作の課題も多数提出する必要がある。			
<b>テキスト</b> プリントを配布する予定			
<b>参考書・参考資料等</b> 授業の際に適宜指示する。			

授業科目名	日本史 Japanese History	担当教員 名	渡辺 英夫
時間割	水曜日 4 時限	オフィスアワー	—
授業科目区分	教養科目－歴史と文化		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2 年次前期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 日本の歴史がアジアの歴史および世界の歴史と密接に関連しつつ展開したことを理解する。テーマは世界の中の日本で、封建制から近代資本主義社会の展開に主眼を置く。			
<b>授業の概要</b> 原始・古代から近現代に至る日本の歴史を概説する。日本の朝廷は中国から律令制を学びつつ中国を中心とする冊封体制から抜け出し、国の体制を固めていった。それは同時に日本国内に中央と辺境、東夷の概念を持ち込むことだった。武家の政権も絶えず中国の影響を受けるなか西南日本人びとは積極的に海に乗り出した。その倭寇の活動は中国の海禁政策への対抗であり、根底には中華思想に基づく東アジアの冊封体制があった。そうした情勢にあつて徳川幕府は将軍を頂点とする独自の対外関係を構築し日本型の華夷秩序を再構成する。欧米資本主義列強は外圧を以て幕藩体制を崩壊へと導き、明治国家は帝国主義列強へ仲間入りしたが、それを支えたのが大東亜共栄圏の考えであり、それは日本型の華夷秩序に他ならなかった。講義はアジアの中での日本、世界との関係を注意しつつ、それぞれの歴史過程における東北地方、秋田の問題を考察できるよう指導する。			
<b>授業計画</b> 第 1 回 ヤマト政権の成立 第 2 回 律令制国家と辺境 第 3 回 荘園と武士、摂関政治から院政へ 第 4 回 仏教と日本社会 第 5 回 武家政権と在地領主制 第 6 回 明の海禁政策と倭寇 第 7 回 戦国から統一へ 第 8 回 近世の対外関係と市場構造 第 9 回 幕藩制国家 第 10 回 資本主義の萌芽 第 11 回 明治維新 第 12 回 条約改正と帝国主義の戦争 第 13 回 政党政治と経済恐慌 第 14 回 アジア太平洋戦争 第 15 回 国際社会への復帰と沖縄 第 16 回 定期試験			
<b>授業時間外の学習内容等</b>			
<b>評価方法</b> 論述形式の試験をおこないます。授業への姿勢(20%)、試験(80%)で 評価します。			
<b>履修上の注意</b> 高校で日本史を勉強しなかった人でも是非受講して下さい。			
<b>テキスト</b> 特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。			
<b>参考書・参考資料等</b> 『日本史辞典』角川書店 3,400 円			

授業科目名	東北生活文化論 Life and Culture in the Tohoku Region	担当教員名	石倉 敏明（*唐澤 太輔） *石倉不在期間中
時間割	木曜日 3 時限	オフィスアワー	
授業科目区分	教養科目—歴史と文化		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2 年次前期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 本講義では秋田を中心に、東北地域全般の特色ある生活文化を考察の対象とする。縄文時代から現在に至るその生活文化史を概観すると共に、特に秋田地域で育まれてきた生活様式や経済活動、祭礼、行事、芸術、思想について、周辺地域の特色とも比較しながら考察する。			
<b>授業の概要</b> この授業では人類学をはじめ考古学、民俗学、神話学、生態学などの横断的な見地から東北地方の実態を見つめ、地域文化の独自性をさまざまな角度から検証する。また、この地域の里山・里海・里川での生活文化を、日本列島を越えて東アジアや環太平洋の文化的なつながりの中に位置づけ、人類の普遍性の中で地域社会の文化的なルーツについて解説する。			
<b>授業計画</b> 第 1 回～2 回 世界のなかの「東北」 環太平洋における縄文文化 第 3 回～4 回 源流としての狩猟採集生活 ブナ帯の生態、狩猟採集文化について 第 5 回～6 回 神仏和合の山々 出羽三山と鳥海山他、山々の神話学 第 7 回～8 回 死と再生の森 曼荼羅と母胎、ウバサマ信仰・ハヤマ信仰の広がり 第 9 回 里山／里川／里海 身近な自然との関わり、鮭と熊の神話 第 10 回 東北的アニミズム 草木供養塔と本覚思想 第 11 回～12 回 神話・芸能・伝承 だんぶり長者伝説と大日堂舞楽 第 12 回～13 回 来訪する精霊 ナマハゲからサンタクロースまで 第 14 回 鎮魂と創造 3.11 以後の東北像 第 15 回 「東北」から始まる未来 魂の東北に向けて （定期試験）			
<b>授業時間外の学習内容等</b> 各自の関心に応じて、特徴ある文化を伝える周辺地域に適宜出かけてみることを。			
<b>評価方法</b> 授業への取り組み 30% 課題の成果（試験、レポート） 70%			
<b>履修上の注意</b> 配布資料のほか、適宜映像資料を使用します。なお、新しい研究成果を授業に反映させるため、各回の内容や順番を変更することがあります。			
<b>テキスト</b> 各回のテキストは適宜配布します。			
<b>参考書・参考資料等</b> 岩崎敏夫『東北民間信仰の研究』、中沢新一『哲学の東北』、千歳栄『山の形をした魂』、田附勝『東北』、山内明美『子ども東北学』、石倉敏明・田附勝『野生めぐり』等。			

授業科目名	東北造形史 Art and Architecture of the Tohoku Region	担当教員名	澤田 享、井上 豪、志邨 匠子
時間割	木曜日 2 時限	オフィスアワー	各教員による
授業科目区分	教養科目－歴史と文化		
履修区分	必修科目	授業形態	講義（オムニバス方式）
配当年次・学期	1 年次後期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 「日本彫刻史」「日本美術史」の内容が関連している。			
授業に関連するキーワード 古・近代建築、彫刻、絵画			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 本学が立地する東北地方には、先人達がこの地に生き育んできた東北ならではの文化が息づいている。それは建築、絵画、彫刻などに特徴的な造形となって表われ、東北の風土を更に豊かにしてきた。本授業では、それらの一端に触れ、その内容や意義について充分理解することである。 ・テーマ 東北地方の国宝建築、秋田の近代建築 東北地方の彫刻史 東北地方の絵画史			
<b>授業の概要</b> この授業では、古代から近代に至る東北の文化遺産を通して先人の心に触れ、伝統的造形美の豊かな土壌について理解を深めていくと共に、本学の造形活動の基礎となる知識を教授する。			
<b>授業計画</b> 第 1 回 中尊寺金色堂の建築と芸術的価値（古代、岩手県） 第 2 回 大崎八幡神社の建築とその装飾（近世、宮城県） 第 3 回 ロシア ハリストス正教と北鹿ハリストス教会聖堂の建築（近代、秋田県） 第 4 回 国名勝『池田氏庭園』内の洋館建築（近代、秋田県） 第 5 回 まとめ 第 6 回 序論：白鳳・天平の仏教美術と東北の仏像（秋田・正伝寺観音菩薩像、源勝寺観音菩薩像ほか） 第 7 回 古代：平安期東北の彫刻（岩手県・黒石寺薬師如来像、山形県・寶積院十一面観音像ほか） 第 8 回 中世：鉦彫像の展開（岩手県・藤里毘沙門堂兜跋毘沙門天像、秋田県・小沼観音像ほか） 第 9 回 近世：円空仏の世界（秋田県・五社堂十一面観音像、青森県・圓通寺十一面観音像ほか） 第 10 回 まとめ 第 11 回 江戸の洋風表現と秋田蘭画～近代東北絵画の先進性と地方性 第 12 回 秋田の画人たち（平福百穂、寺崎広業、福田豊四郎） 第 13 回 棟方志功と萬鉄五郎～東北出身画家の「伝統」と「近代」 第 14 回 藤田嗣治と岡本太郎の東北 第 15 回 まとめ			
<b>授業時間外の学習内容等</b> 授業で習ったこと、配付されたプリントをみて、復習を行うこと。			
<b>評価方法</b> 各まとめ時に教場レポートを作成、提出にて評価し、100 点満点で 60 点以上を単位認定とする。			
<b>履修上の注意</b> 配布されたプリントは綴じて持参すること。			
<b>テキスト</b> プリント等を配布する。			
<b>参考書・参考資料等</b>			

授業科目名	素材と表現・デザイン Materials: Expression and Design	担当教員名	小牟禮 尊人、安藤 康裕、 今中 隆介、山岡 惇、安藤 郁子、 熊谷 晃、瀬沼 健太郎、森 香織
時間割	水曜日 1 時限	オフィスアワー	各教員による
授業科目区分	教養科目－歴史と文化		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	2 年次後期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
<b>授業に関連するキーワード</b> 「素材・技法」「地域性」「伝統」「生活」「工芸」「プロダクトデザイン」「ものづくり」「木・漆・金属・染色・陶芸・ガラス」			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 多様な素材による技術や表現を理解し、ものづくりや美術表現への共感や共有を得る礎とする。また、それらによって生み出された物や、その背景と役割について理解を深める。			
<b>授業の概要</b> 生活空間を彩る様々な素材の材料特質と加工方法（ガラス、金属、木、漆、染色、陶芸、プロダクトデザイン素材）と、歴史的背景などについて解説する。また、各素材で作られた生活財やアート作品、ものづくりの事例などを紹介し、素材と表現とデザインの関係性を考察する。			
<b>授業計画</b> （オムニバス形式） 第 1 回 全体ガイダンス：各授業の概要説明とレポート等説明 第 2 回 ガラスの特質や技法等について（小牟禮 尊人・瀬沼 健太郎） 第 3 回 ガラス作品やものづくりの事例紹介 第 4 回 金属の特質や技法、表現について（安藤 康裕） 第 5 回 金作品やものづくりの事例紹介 第 6 回 木材の特質や技法、表現について（山岡 惇） 第 7 回 木作品やものづくりの事例紹介 第 8 回 漆の特質や技法、表現について（熊谷 晃） 第 9 回 漆作品やものづくりの事例紹介 第 10 回 染色の特質や技法、表現について（森 香織） 第 11 回 染色作品やものづくりの事例紹介 第 12 回 陶芸の特質や技法、表現について（安藤 郁子） 第 13 回 陶芸作品やものづくりの事例紹介 第 14 回 プロダクトデザイン素材の特質や加工方法について（今中 隆介） 第 15 回 プロダクトデザイン製品やものづくりの事例紹介			
<b>授業時間外の学習内容等</b> 授業中に配布された資料や映像資料等を基に授業を振り返り、理解を深める。また、レポート課題に取り組むための調査や考察が必要となるため、授業時間外の学修が前提となる。			
<b>評価方法</b> レポート 80%、授業への取り組み 20% 100 点満点で 60 点以上を単位認定要件とする。			
<b>履修上の注意</b> ものづくりデザイン専攻に進む学生は履修することが望ましい。			
<b>テキスト</b> 必要に応じて適宜配布			
<b>参考書・参考資料等</b> 各教員から紹介する			

授業科目名	文化人類学 Cultural Anthropology	担当教員名	石倉 敏明 (*唐澤 太輔) *石倉不在期間中
時間割	木曜日 3 時限	オフィスアワー	
授業科目区分	教養科目一歴史と文化		
履修区分	必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	2 年次後期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 人類学は地球上のさまざまな民族文化に学び、人類の心の普遍性を核とするユニークで多様な表現を理解する方法である。本講義では、諸々の文化の根源にある神話や祭り、経済活動や労働、エコロジーや時間／空間認識といった問題を通してこの方法を深め、日本列島の思想表現と世界の文化を統一的に理解するための考察力を養う。			
<b>授業の概要</b> 本講義では、近年日本をはじめ各国で発達を遂げた「芸術人類学」の知見をもとに、異なる習慣や文化をもつ人びとの間にどのような共通性が存在するかという問題を、人類の心の普遍性という視点から探究する。ここでは特に「対称性」概念に着目し、贈与と交換、生産と消費、労働と遊びなど、異なる原理の組み合わせによって構築される「複論理 bi-logic」のダイナミズムについて学ぶ。			
<b>授業計画</b> 第 1 回～3 回 芸術人類学入門 旧石器時代の芸術と世界認識／脳科学に見る宗教と芸術の交錯／人間と動物の関係 第 4 回～6 回 神話と表現 循環する時空間の表現／音楽と神話／食べ物の起源／住まいと宇宙論／アフリカの映像人類学／エコロジーとしての神話学 第 7 回～10 回 贈与と共有 贈与と交換／エネルギーの存在論／芸術・労働・遊び／民藝と生活工芸 第 11 回～13 回 今日の神話学 観点主義と多自然論／制度外の芸術について／変換と反転／過去と未来をつなぐ営み 第 14 回～15 回 再獲得された世界 芸術制作と生活世界／芸術の神話体系／森はいかに思考するか？／「対称性」の再構築へ (定期試験)			
<b>授業時間外の学習内容等</b> 各自の関心に応じて、関連文献を調べておくこと。			
<b>評価方法</b> 授業への取り組み 30% 課題の成果 (試験・レポート) 70%			
<b>履修上の注意</b> 配布資料のほか、適宜映像資料を使用します。なお、新しい研究成果を授業に反映させるため、各回の内容や順番を変更することがあります。			
<b>テキスト</b> 各回のテキストは適宜配布します。			
<b>参考書・参考資料等</b> 石倉敏明・田附勝『野生めぐり』、中沢新一『カイエ・ソバージュ』(全五巻)、奥野他編『人と動物の人類学』、C.レヴィ＝ストロース『野生の思考』、パット・シップマン『アニマル・コネクション』、マルセル・モース『贈与論』など。			

授業科目名	文化人類学特論 Advanced Cultural Anthropology	担当教員名	石倉 敏明 (*唐澤 太輔) *石倉不在期間中
時間割	水曜日 2 時限	オフィスアワー	
授業科目区分	教養科目—歴史と文化		
履修区分	選択科目	授業形態	講義 (一部演習・実習)
配当年次・学期	3・4 年次前期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> この授業では現代の人文諸科学の成果を参照しながら、生命を懐胎し、出産し、育むものであり、また死をもたらす恐ろしいものとしても表象される女性や母性についての神話的イメージを探る。人類の想像力や創造性と女性性一般の関係を考察することによって、「人間が生まれること」の意義やその芸術表象の歴史を探究し、生態系と人間、古代的なものと未来的なものを繋ぐ思考力や表現力を養う。			
<b>授業の概要</b> 本講義では主に女性性を探究の主題としながら、神話研究を通して、人びとの生活にとって欠かすことのできない自然との関わりについて探究する。動物や植物といった非人間の生物、山や海といった自然景観、木材や毛皮といった材料、「山の神」等の聖性表現に着目し、その根源にある産出力と破壊力、創造性と否定性を理解する。また、日本列島の民話や伝承のなかで生き続ける「贈与する自然」のイメージを、より深く理解することを目指す。			
<b>授業計画</b> 第 1 回～2 回 懐胎すること、生まれること ～「贈与」の根源性 第 3 回～4 回 エロティシズムについて ～他者の受け入れと二重の生命 第 5 回～6 回 母子間の潜在空間 ～ ウィニコット、メルツァーの研究から 第 7 回～8 回 母子神の世界的展開 ～「桃太郎の母」の環太平洋的広がり 第 9 回～10 回 「包み」と「結び」 ～デザイン化された産出性 第 11 回～12 回 芸術・贈与・貨幣 ～「価値を生み出すもの」としての芸術 第 13 回～14 回 「他者を食べる」／「他者を産む」 ～宇宙的食物連鎖について 第 15 回 まとめ ～「内なる野生」への通路を拓く (定期試験)			
<b>授業時間外の学習内容等</b> 各自の関心に応じて、関連文献を調べておくこと。			
<b>評価方法</b> 授業への取り組み 30% 課題の成果 (試験、レポート) 70%			
<b>履修上の注意</b> 新しい研究成果を授業に反映させるため、各回の内容や順番を変更することがあります			
<b>テキスト</b> 各回のテキストは適宜配布します。			
<b>参考書・参考資料等</b> ネリー・ナウマン『山の神』、中沢新一『カイエ・ソバージュ』『精霊の王』、石倉敏明他『折形デザイン研究所の新・包結図説』、マーク・シェル『芸術と貨幣』、ベルティンク『イメージ人類学』他。			

授業科目名	異文化コミュニケーション論 Intercultural Communication	担当教員名	浜田 英紀
時間割	水曜日 1 時限	オフィスアワー	
授業科目区分	教養科目－歴史と文化		
履修区分	選択科目	授業形態	講義および演習
配当年次・学期	3・4年次前期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 本講義では、多文化主義（マルチカルチュラリズム）に基盤をおいて、それが人間の認知過程、社会生活、対人関係、行動規範、社会集団のあり方などに、どのような影響を与えるのか、及び文化の多様性をいかして効果的なコミュニケーションを行うには何が必要かという問題等を各自が自身の異文化接触場面と関連づけながら考えられるようになることを目的とする。			
<b>授業の概要</b> 上記の問題についての背景となる理論や分析を学ぶと共に、それがいかに自分の生活と関連づけられるかを考え、現状の課題と実践的対応の仕方など、文化の多様性の中での効果的なコミュニケーションを学ぶ。授業ではグループ討論や演習形式のシミュレーションなども多く取り入れる。			
<b>授業計画</b> 第1 回 コース紹介 第2 回 文化とは コミュニケーションとは 第3 回 コミュニケーションスタイル 第4 回 言語コミュニケーション 第5 回 言語コミュニケーション 第6 回 非言語コミュニケーション 第7 回 非言語コミュニケーション 第8 回 異文化シミュレーション(可能であれば学外) 第9 回 文化的価値観 第10 回 文化的価値観 第11 回 最終発表リサーチ 第12 回 異文化適応 第13 回 異文化適応 第14 回 発表 第15 回 まとめ			
授業時間外の学習内容等			
<b>評価方法</b> 授業態度及び授業への貢献度 30%、宿題・リフレクションペーパー30%、最終発表とレポート 40%			
<b>履修上の注意</b> 授業では多くのディスカッションを行う。積極的取り組みを望む。			
<b>テキスト</b> 八代京子ほか 異文化コミュニケーションワークブック (2001) 三修社 (¥3,024)			
<b>参考書・参考資料等</b> 必要に応じて授業時に紹介			

授業科目名	英語総合講座 1 General English 1	担当教員名	大八木 敦彦
時間割	火、水、金曜日 2 時限	オフィスアワー	
授業科目区分	教養科目－外国語		
履修区分	選択必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1 年次前期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>The purpose of this class is to provide students with basic, general English knowledge and a foundation for further studies in English language.</p>			
<p>授業の概要</p> <p>The main focus will be on improving students' four skills of basic-level English through watching the famous American movies.</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回 SCENE 1 Paramount News brings you ~ Vocabulary, Viewing with the Script  第 2 回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation  第 3 回 SCENE 2 I hate this night gown ~ Vocabulary, Viewing with the Script  第 4 回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation  第 5 回 SCENE 3 She's asleep ~ Vocabulary, Viewing with the Script  第 6 回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation  第 7 回 SCENE 4 Bet five hundred. ~ Vocabulary, Viewing with the Script  第 8 回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation  第 9 回 SCENE 5 So... happy ...How are you ~ Vocabulary, Viewing with the Script  第 10 回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation  第 11 回 SCENE 6 Where're we going? ~ Vocabulary, Viewing with the Script  第 12 回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation  第 13 回 SCENE 7 Is this the elevator? ~ Vocabulary, Viewing with the Script  第 14 回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation  第 15 回 Review and Consolidation</p>			
授業時間外の学習内容等			
<p>評価方法</p> <p>Participation in class (60%) Semester-end Test (40%)</p>			
<p>履修上の注意</p> <p>Students should preview the appropriate part in the textbook and be prepared to answer questions in class.</p>			
<p>テキスト</p> <p>Roman Holiday ETM Method (南雲堂) ¥2500 (税抜)</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>English-Japanese Dictionary</p>			

授業科目名	英語総合講座2 General English 2	担当教員名	大八木 敦彦
時間割	水、木、金曜日3、5時限	オフィスアワー	
授業科目区分	教養科目－外国語		
履修区分	選択必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1年次後期	単位数	2単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>The purpose of this class is to provide students with intermediate, specialized English knowledge and a foundation for further studies in English language.</p>			
<p>授業の概要</p> <p>The main focus will be on improving students' four skills of intermediate-level English through watching the famous American movies.</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 SCENE 8 Oh, holy smoke ~ Vocabulary, Viewing with the Script, 'Halloween'</p> <p>第2回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation, 'Vigil'</p> <p>第3回 SCENE 9 Now listen carefully ~ Vocabulary, Viewing with the Script, 'Vigil'</p> <p>第4回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation, 'Vigil'</p> <p>第5回 SCENE 10 She's asleep ~ Vocabulary, Viewing with the Script, 'Christmas'</p> <p>第6回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation</p> <p>第7回 SCENE 11 Swell! Thanks a lot! ~ Vocabulary, Viewing with the Script</p> <p>第8回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation, 'Christmas'</p> <p>第9回 SCENE 12 Just cut, thank you ~ Vocabulary, Viewing with the Script</p> <p>第10回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation, 'Christmas'</p> <p>第11回 SCENE 13 Well, it's you! ~ Vocabulary, Viewing with the Script, 'Christmas'</p> <p>第12回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation</p> <p>第13回 SCENE 14 What will the people at ~ Vocabulary, Viewing with the Script</p> <p>第14回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation</p> <p>第15回 Review and Consolidation</p>			
授業時間外の学習内容等			
<p>評価方法</p> <p>Participation in class (60%) Semester-end Test (40%)</p>			
<p>履修上の注意</p> <p>Students should preview the appropriate part in the textbook and be prepared to answer questions in class.</p>			
<p>テキスト</p> <p>Roman Holiday ETM Method (南雲堂) ¥2500 (税抜)</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>English-Japanese Dictionary</p>			

授業科目名	英語総合講座3 General English 3	担当教員名	大八木 敦彦
時間割	火曜日 2 時限	オフィスアワー	
授業科目区分	教養科目－外国語		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	2・3 年次前期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> The purpose of this class is to provide students with advanced, exclusive English knowledge and a foundation for further studies in English language.			
<b>授業の概要</b> The main focus will be on improving students' four skills of advanced-level English through watching the famous American movies.			
<b>授業計画</b> 第 1 回 SCENE 15 Joe, just...now, wait ~ Vocabulary, Viewing with the Script 第 2 回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation 第 3 回 SCENE 16 Look at those men! ~ Vocabulary, Viewing with the Script 第 4 回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation 第 5 回 SCENE 17 I'll park at the corner ~ Vocabulary, Viewing with the Script 第 6 回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation 第 7 回 SCENE 18 This is the American Hour ~ Vocabulary, Viewing with the Script 第 8 回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation 第 9 回 SCENE 19 Joe, is it true? ~ Vocabulary, Viewing with the Script 第 10 回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation 第 11 回 SCENE 20 It ain't much ~ Vocabulary, Viewing with the Script 第 12 回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation 第 13 回 SCENE from Breakfast at Tiffany's and other movies 第 14 回 SCENE from My fair Lady and other movies 第 15 回 Review and Consolidation			
授業時間外の学習内容等			
<b>評価方法</b> Participation in class (60%) Semester-end Test (40%)			
<b>履修上の注意</b> Students should preview the appropriate part in the textbook and be prepared to answer questions in class.			
<b>テキスト</b> Roman Holiday ETM Method (南雲堂) ¥2500 (税抜)			
<b>参考書・参考資料等</b> English-Japanese Dictionary			

授業科目名	英会話A English Conversation A	担当教員名	Randy Kay Checketts
時間割	火曜日 1、2 時限	ホワイトボード	—
授業科目区分	教養科目－外国語		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2年次前期	単位数	2単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> Encouraging students to use English with confidence is the primary goal. Students will have practice each week with listening, writing, memorizing and the giving of presentations. Students are required to take their own notes, since a textbook will not be used. In the 1st semester, numbers, as they are used when buying things and when telling time, will be studied; in English there are many variations. Students will gain confidence in communicating about common things in everyday life.			
<b>授業の概要</b> この授業の最大の目的は学生が自信を持って英語を話せるようになるという事です。学生は毎回、リスニング、ライティング、暗記、そしてプレゼンテーションする機会を与えられます。教科書は使いませんので、学生は自主的にメモを取るようになります。前期では買い物や時間の表現に使う様々な数字を学習するなど、日常生活において英語で話す際の自信を培います。			
<b>授業計画</b> 第1回 Self-Introduction: Report; BV Listening Vocabulary; The Week/New Terms 第2回 BV 1 Quiz; Numbers and Dates; Weekend Report and Presentation 第3回 BV 2 Quiz; begin TIME lesson 第4回 BV 3 Quiz; Finish TIME lesson 第5回 BV 4 Quiz; TIME practice quiz 第6回 BV Final Quiz; TIME quiz 第7回 PRESENTATION video; discussion on giving presentations 第8回 Introduce MONEY; Base Ten discussion; Begin Coins 第9回 MONEY: Bills and Change 第10回 MONEY: Review 3- and 4-digit numbers; Begin WRITING/LISTENING 第11回 Finish MONEY lesson 第12回 MONEY practice quiz and review 第13回 MONEY quiz 第14回 MOVIE: Reward for hard study 第15回 A/AN Alphabet and Language activity (定期試験)			
授業時間外の学習内容等			
<b>評価方法</b> The final assessment is based on attendance, active participation in class, and quizzes.			
<b>履修上の注意</b> Active participation of students in class is essential. The use of a dictionary is required.			
テキスト			
<b>参考書・参考資料等</b> The exam material will be based on subjects discussed in class.			

授業科目名	英会話 B English Conversation B	担当教員名	Randy Kay Checketts
時間割	火曜日 1、2 時限	オフィスアワー	—
授業科目区分	教養科目－外国語		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2 年次後期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> <p>The work this semester will build on the foundation of work covered in the 1st semester. Hopefully, there will be more volunteer Presentations. Weekly-written reports about Weekend Activities will continue. Because of approaching winter and cold weather, a number of students will have medical needs; they catch colds, etc.. So, a long look will be taken at various symptoms of illness and physical injury. Also, medicine needs and advice are discussed. This study requires an extensive vocabulary. The remainder of the semester will be used to discuss Names and Addresses, for use when traveling or writing letters. All of this study will have practical application.</p>			
<b>授業の概要</b> <p>後期は前期の内容を基にした授業となり、学生のプレゼンテーションへの自主的参加を期待しています。週末についてのレポートは前期に引き続き毎週提出となります。冬に向かい風邪など体調を崩す季節に入るため、病気の症状や怪我、薬などについても話し合いますが、そのためには沢山の語彙学習が不可欠です。その他、将来の海外旅行や海外との手紙のやり取りのための、名前や住所の表示の仕方など、実用向きな内容を学習します。</p>			
<b>授業計画</b> 第 1 回 Discuss Summer: Report; give Body-Part names 第 2 回 Begin Weekend; continue Body Parts lesson 第 3 回 Begin Presentations; continue Body Parts lesson 第 4 回 Continue Body Parts lesson 第 5 回 Practice Spelling quiz #1 (E/E); continue Body Parts lesson 第 6 回 Practice Spelling quiz #2 (E/E); continue Body Parts lesson 第 7 回 Practice Spelling quiz #3 (J/E); finish Body Parts lesson 第 8 回 Body Parts practice quiz (as review) 第 9 回 Body Parts quiz 第 10 回 Movie: Dennis the Menace; Report: childhood innocence 第 11 回 Santa Claus (30-minute video); give Crossword Puzzle 第 12 回 Discuss Crossword Puzzle on Christmas symbols 第 13 回 Begin Address lesson 第 14 回 Continue Address lesson 第 15 回 Review for Address quiz (定期試験)			
<b>授業時間外の学習内容等</b> (			
<b>評価方法</b> The final assessment is based on attendance, active participation in class, quizzes and a term-end exam.			
<b>履修上の注意</b> Active participation of students in class is essential. The use of a dictionary is required.			
<b>テキスト</b>			
<b>参考書・参考資料等</b> The exam material will be based on subjects discussed in class.			

授業科目名	韓国語 A Korean A	担当教員名	金 孝卿
時間割	火曜日 4 時限	オフィスアワー	
授業科目区分	教養科目－外国語		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2 年次前期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
<b>授業に関連するキーワード</b> 韓国社会と文化・韓国の大学生の生活			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 授業は、韓国語を学習したことのない初心者を対象とする。特に、「話す」会話能力を中心に進め、ハングルでの挨拶、学校や日常会話で使える基本的な表現と、楽しく話せる会話力を身に付けることを目標とする。授業の進捗状況に合わせて、小テストを実施する。			
<b>授業の概要</b> 授業は、講義形式だけではなく、なるべく相互活動で話し合いの形で進める。授業は、基本的に教科書の内容に沿って進めていくが、映像などを積極的に取り入れながら、教科書の内容を補って進行する。また、ハングルの文字や意味だけでなく、韓国語を使ったゲームやパフォーマンスを実施する。			
<b>授業計画</b> 第 1 回 韓国について知る。 第 2 回 ハングル①/基本母音・複合母音 第 3 回 ハングル②/基本子音 第 4 回 ハングル③/パッチム 第 5 回 挨拶の言葉について 第 6 回 自己紹介について 第 7 回 これは何ですか。 第 8 回 コーヒーください。韓国式数字① 第 9 回 ～をください。韓国式数字② 第 10 回 何時ですか。 第 11 回 電話番号が何番ですか。中国式数字① 第 12 回 電話番号が何番ですか。中国式数字② 第 13 回 誕生日はいつですか。中国式数字③ 第 14 回 【場所】～に行きます。 第 15 回 【人】～がどこにいますか。			
<b>授業時間外の学習内容等</b> 授業中に配布する資料を読んだり、単語を覚えたりすることで理解を深める。また、復習するための課題の提出が必要となる。			
<b>評価方法</b> 授業態度 20%、課題 20%、小テスト 20%、期末テスト 40%とで総合的に評価し、60 点以上を単位認定要件とする。			
<b>履修上の注意</b> 最初の時間に韓国語の文字を学習するので、必ず出席すること。 授業は 1 回完結が基本として、欠席した場合は補充がきかないので注意すること。			
<b>テキスト</b> 毎週プリントを配布する。映像物を通してパフォーマンスを実施する。			
<b>参考書・参考資料等</b> 適宜配布する。			

授業科目名	韓国語 B Korean B	担当教員名	金 孝卿
時間割	木曜日 3 時限	オフィスアワー	
授業科目区分	教養科目－外国語		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2 年次後期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
<b>授業に関連するキーワード</b> 韓国社会と文化・韓国の大学生の生活			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> この科目を終了時に次のことが出来ることを目標とする。 1. 韓国語能力試験初級の基本語彙が使える。 2. 韓国語Aで習った文型などの運用が出来、その応用出来る。 3. 日常生活で韓国人と簡単なコミュニケーションができる。			
<b>授業の概要</b> この授業は、韓国語Aの次の段階としての発展科目である。韓国語Aで習得した基本文型・語彙などを深化・応用させ、韓国語によるコミュニケーション能力を身に付ける。具体的には、韓国語の語学の面だけではなく、文化的背景なども積極的に多く取り入れ、文化を基盤とした韓国語の運用能力を高める。教材の内容を補って進行する。予習と復習のための課題を提示し、授業の進捗状況に合わせて小テストを実施する。			
<b>授業計画</b> 第 1 回 韓国語の面白さ(発音の変化) 第 2 回 ソウルは、朝～時です。 第 3 回 【場所】で【行動】をします。① 第 4 回 【場所】で【行動】をします。② 第 5 回 動詞の現在形 第 6 回 動詞の過去形 第 7 回 動詞の否定形 第 8 回 動詞の過去形・否定形の復習 第 9 回 【場所】はどこにありますか。 第 10 回 【目的】しに行きますか。 第 11 回 動詞の未来形 第 12 回 【目的】しに行きます。 第 13 回 移動の手段・尊敬語 第 14 回 命令・禁止の命令 第 15 回 動詞の未来形の復習 期末テスト			
<b>授業時間外の学習内容等</b> 授業中に配布する資料を読み、理解を深める。また、予習と復習のための課題提出が必要である。			
<b>評価方法</b> 授業態度 20%、中間テスト 30%、期末テスト 50%とで総合的に評価し、60 点以上を単位認定要件とする。			
<b>履修上の注意</b> 最初の時間に韓国語の文字を学習するので、必ず出席すること。 授業は 1 回完結が基本として、欠席した場合は補充がきかないので注意すること。			
<b>テキスト</b> 毎週プリントを配布する。映像物を通してパフォーマンスを実施する。			
<b>参考書・参考資料等</b> 適宜配布する。			

授業科目名	中国語A Chinese A	担当教員名	陳 風
時間割	火曜日 5 時限	オフィスアワー	—
授業科目区分	教養科目－外国語		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2年次前期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> この科目を修了時に次の目標に到達することが可能である。 1 中国語の発音や声調について基本的な知識を持ち、かつ、正確に発音したり、聞き取ったりすることができる。 2 簡単な挨拶や自己紹介など、中国語の基本語彙や文型、文法を習得し、「聞く」、「話す」、「書く」という三つのレベルにおいて、それらを応用できる。			
<b>授業の概要</b> この授業は、中国語を初めて学ぶ学生を想定した入門コースである。発音、声調、基礎語彙、基本文型などを学習し、中国語の基礎語学力を身につけることを目標とする。コミュニケーション力の養成を重視する観点から、「聞く」、「話す」、「書く」、「読む」の4つのスキルがバランス良く学べるように配慮しつつ、特に中国語の発音や声調などになるべく早く慣れてもらうことに重点が置かれる。			
<b>授業計画</b> 第1回 プロローグ A、B (発音・声調) 第2回 プロローグ C、D (発音・声調) 第3回 ①テスト (プロローグ A-D) ②第1課 単語 本文 (朗読・文法説明) 第4回 第1課 プラクティス (書き取り・会話・作文) 第5回 第2課 単語 本文 (朗読・文法説明) 第6回 第2課 プラクティス (書き取り・会話・作文) 第7回 第3課 単語 本文 (朗読・文法説明) 第8回 第3課 プラクティス (書き取り・会話・作文) 第9回 ①テスト (第1課—第3課) ②第4課 単語 本文 (朗読・文法説明) 第10回 第4課 プラクティス (書き取り・会話・作文) 第11回 第5課 単語 本文 (朗読・文法説明) 第12回 第5課 プラクティス (書き取り・会話・作文) 第13回 第6課 単語 本文 (朗読・文法説明) 第14回 第6課 プラクティス (書き取り・会話・作文) 第15回 ①第6課 プラクティス (続き) ②テスト (第4課—第6課) 授業時間外の学修方法と内容としては、1、毎回の授業の前に約30分程度、テキスト付属のCDを聴きながら発音や声調の予習をしておくこと、2、授業の後に既習の文法事項について約30分程度を使って復習すること、3、授業で配布した作文などの練習問題を、答え合わせをする次の授業までに終らせること (所要時間約1時間)。			
<b>授業時間外の学習内容等</b>			
<b>評価方法</b> 授業態度 (宿題を含む) 40%、 テスト 60%。			
<b>履修上の注意</b> 上記とは別に課毎に30分程度の宿題があり、宿題は必ず期限までに提出すること。			
<b>テキスト</b> 『ともだち・朋友 トータル版』 朝日出版社 定価2625円 ISBN 978-4-255-45167-1			
<b>参考書・参考資料等</b> 特になし			

授業科目名	中国語 B Chinese B	担当教員名	陳 風
時間割	火曜日 5 時限	オフィスアワー	—
授業科目区分	教養科目－外国語		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2 年次後期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> この科目を修了した時点で、次の目標に到達することが可能である。 1 基本語彙 400 程度の使い方の習得。 2 初級から中級レベルの基本文法（存在表現、可能表現、様態補語、方向補語、把構文など）の習得。 3 限られた場面でのコミュニケーション。			
<b>授業の概要</b> この授業は、中国語 A の発展科目である。中国語 A で身につけた基礎的技能や知識をもとに、中国語によるコミュニケーション力の向上を目的とする。具体的には、日常会話などにも必要な様々な文法知識、社会生活の様々な場面で使われる表現や語彙などを学習し、中国語応用力のステップアップを図る。			
<b>授業計画</b> 第 1 回 第 7 課 単語・本文（朗読・文法説明） 第 2 回 第 7 課 プラクティス（書き取り・会話・作文） 第 3 回 第 8 課 単語・本文（朗読・文法説明） 第 4 回 第 8 課 プラクティス（書き取り・会話・作文） 第 5 回 第 9 課 単語・本文（朗読・文法説明） 第 6 回 第 9 課 プラクティス（書き取り・会話・作文） 第 7 回 第 10 課 単語・本文（朗読・文法説明） 第 8 回 第 10 課 プラクティス（書き取り・会話・作文） 第 9 回 ①テスト（第 7 課—第 10 課）② 第 11 課 単語・本文（朗読・文法） 第 10 回 第 11 課 プラクティス（書き取り・会話・作文） 第 11 回 第 12 課 単語・本文（朗読・文法説明） 第 12 回 第 12 課 プラクティス（書き取り・会話・作文） 第 13 回 第 13 課 単語・本文（朗読・文法説明） 第 14 回 第 13 課 プラクティス（書き取り・会話・作文） 第 15 回 ①第 13 課プラクティス（続き）②テスト（第 11 課—第 13 課） 授業時間外の学修方法と内容としては、1、毎回の授業の前に約 30 分程度、テキスト付属の CD を聴きながら発音や声調の予習をしておくこと、2、授業の後に既習の文法事項について約 30 分程度を使って復習すること、3、授業で配布した作文などの練習問題を、答え合わせをする次の授業までに終らせること（所要時間約 1 時間）。			
<b>授業時間外の学習内容等</b>			
<b>評価方法</b> 授業態度（宿題を含む）40%、 テスト 60%。			
<b>履修上の注意</b> 中国語 1 を修了した学生が対象となる。上記とは別に課毎に 30 分程度の宿題があり、宿題は必ず期限までに提出すること。			
<b>テキスト</b> 『ともだち・朋友 トータル版』 朝日出版社 定価 2 6 2 5 円 ISBN 978-4-255-45167-1			
<b>参考書・参考資料等</b> 特になし			

授業科目名	フランス語 A French A	担当教員名	中田 俊介
時間割	金曜日 5 時限	オフィスアワー	—
授業科目区分	教養科目－外国語		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1 年次後期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> フランス語を正確に、美しく発音できるようになる。 フランス語の綴りを正しく読み、書けるようになる。 主に現在時制を用いて言うことのできる日常的な基本表現が使えるようになる。 フランス語およびフランス文化についての関心・理解を深める。			
<b>授業の概要</b> フランス語を初めて学ぼうとする者を対象とし、フランス語で聞き、話し、読み、書くための最も基本的なスキルを習得するためのクラスである。語彙は 300 語程度、実用フランス語技能検定試験 5 級準備レベルの運用力を身につける。言語・文化に親しむために歌を歌ったり、詩を朗読したりといった活動も行う。授業時間外の学修については、都度の授業の復習および次回授業での小テストの準備のために学修内容を指示またはプリントの配布を行う。			
<b>授業計画</b> 第 1 回 フランス語の音 1 第 2 回 フランス語の音 2 ・ つづり 1 ・ あいさつ 第 3 回 フランス語の音 3 ・ つづり 1 ・ 車を運転しますか (2 語幹動詞) 第 4 回 つづり 2 ・ よく眠れますか (2 語幹動詞) ・ 第 5 回 つづり 3 ・ 出身はどこですか (3 語幹動詞) 第 6 回 1～5 回までの復習 第 7 回 歌はうまいですか (1 語幹動詞) 第 8 回 何をするのが好きですか (1 語幹動詞) 第 9 回 日本人ですか (不規則動詞 être) 第 10 回 車を持っていますか (不規則動詞 avoir) 第 11 回 これは何ですか (不定冠詞) 第 12 回 これはあなたのペンですか (定冠詞) 第 13 回 これは誰のですか (強勢形代名詞) 第 14 回 7～13 回までの復習 第 15 回 全体復習 <期末テスト>			
<b>授業時間外の学習内容等</b>			
<b>評価方法</b> 授業態度 (宿題を含む) 20%、小テスト 40%、期末テスト 40%。			
<b>履修上の注意</b> 入門とはいえ、フランス語を使えるようにするためのクラスなので、普段の授業参加はもちろん、授業時間以外での継続的な学習が不可欠であり、その覚悟で臨むこと。			
<b>テキスト</b> 『フランス語話す聞くかんたん入門書』(池田書店, 2016 年, 1404 円)			
<b>参考書・参考資料等</b> 授業中に指示・配布する。			

授業科目名	フランス語 B French B	担当教員名	中田 俊介
時間割	火曜日 1 時限	オフィスアワー	—
授業科目区分	教養科目－外国語		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	2 年次前期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> フランス語 A で学んだ正しい発音、綴りを正確に読み書きする力を確かなものにする。 に現在時制に加え、過去形や未来形をも用いて、フランス語 A よりも幅広い表現が使えるようになる。 フランス語およびフランス文化についての関心・理解を深める。			
<b>授業の概要</b> フランス語 A で学んだことを土台に、話し、読み、書くための基本的なスキルを引き続き習得するためのクラスである。語彙はフランス語 1 で学んだものを確実にしつつ新たに 200 語程度、実用フランス語技能検定試験 5 級に合格できるレベルの運用力を身につける。言語・文化に親しむために歌を歌ったり、詩を朗読したりといった活動も行う。 授業時間外の学修については、都度の授業の復習および次回授業での小テストの準備のために学修内容を指示またはプリントの配布を行う。			
<b>授業計画</b> 第 1 回 フランス語 A の復習① 第 2 回 フランス語 A の復習② 第 3 回 フランス語 A の復習③ 第 4 回 これは誰のですか（所有形容詞） 第 5 回 ワインを飲みますか（部分冠詞） 第 6 回 チーズを食べたいですか・何をしたいですか（準動詞 vouloir） 第 7 回 1～6 回までの復習 第 8 回 来年パリに行きますか・今日展覧会に行きますか（動詞 aller・縮約） 第 9 回 今週末は何をするつもりですか（近接未来） 第 10 回 彼を知っていますか（直接目的語代名詞） 第 11 回 私にその本を貸してくれませんか（間接目的語代名詞） 第 12 回 お昼は何を食べましたか（完了過去①） 第 13 回 昨日美術館に行きましたか（完了過去②） 第 14 回 8～13 回までの復習 第 15 回 全体復習 <期末テスト>			
<b>授業時間外の学習内容等</b>			
<b>評価方法</b> 授業態度（宿題を含む）20%、小テスト 40%、期末テスト 40%。			
<b>履修上の注意</b> フランス語 A 同様、フランス語が使えるようにするためのクラスなので、普段の授業参加はもちろん、授業時間以外での継続的な学習が不可欠であり、その覚悟で臨むこと。			
<b>テキスト</b> 『フランス語話す聞くかんたん入門書』（池田書店、2016 年、1404 円）			
<b>参考書・参考資料等</b> 授業中に指示・配布する。			

授業科目名	プログラミング入門 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">実</span> Introduction to Computer Programming	担当教員名	野村 松信
時間割	水曜日 4 時限	オフィスアワー	金曜日 10 時 30 分～12 時 (野村研究室)
授業科目区分	教養科目－情報科目		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	2・3 年次前期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 講義の理解を深めるため、「プログラミング演習基礎」も履修すること。			
授業に関連するキーワード プログラミング、Java、オブジェクト指向			
授業の到達目標及びテーマ プログラミング言語を習得することは、ソフトウェアを使用する立場から、コンピュータで何ができるのか、なぜできるのか、その仕組みを深く理解することになる。そのために、オブジェクト指向プログラミング言語の一つである「Java」の基本的文法、およびオブジェクト指向プログラミングの重要な概念であるクラスやオブジェクトの基本的機能について理解する。			
授業の概要 現在、多くのIT企業では、ネットワークと親和性がありプラットフォームに依存しないJava開発環境によるシステム開発が進んでいる。このような背景から、多くのプログラミング言語の中からJava言語を選択した。Java言語によるプログラミングを通じ、コンピュータソフトウェアの動作原理を理解し、プログラムを作成する能力を身につける。そして、簡単な図形描画やゲームプログラミングのための基礎的知識、アルゴリズムについて学習する。また、プログラミング言語の基本的文法である変数、演算子、分岐処理、繰り返し処理、配列について学習し、オブジェクト指向プログラミングの重要な概念であるクラスの基本、クラスの機能や利用方法についても学ぶ。			
授業計画 第1回 ガイダンス・プログラム作成から実行までの手順 第2回 Javaの基本(画面への出力、文字と数値) 第3回 変数のしくみ 第4回 式と演算子 第5回 分岐処理(if文、switch文、論理演算子) 第6回 繰り返し処理(for文、while文、do while文) 第7回 配列のしくみ 第8回 Javaアプレットの基本 第9回 いろいろなアプレット(1) 第10回 いろいろなアプレット(2) 第11回 クラスの基本(クラスとは、オブジェクトの作成等) 第12回 クラスの機能(アクセス制限、オーバーロード、コンストラクタ) 第13回 クラスの利用(クラスライブラリ、クラス型変数等) 第14回 新しいクラス(継承、オーバーライド等) 第15回 特殊なクラス(抽象クラス、インターフェイス等) (定期試験)			
授業時間外の学習内容等 講義の理解を深めるため、事前に教科書を予習すること。			
評価方法 授業態度 20%、期末試験 80%で評価する。			
履修上の注意			
テキスト 「やさしいJava」高橋著(SoftBank Creative)			
参考書・参考資料等 必要に応じて授業中に参考資料・プリントを配布する。			

授業科目名	プログラミング演習基礎 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">実</span> Exercise in Computer Programming	担当教員名	野村 松信
時間割	水曜日 5 時限	オフィスアワー	金曜日 10 時 30 分～12 時 (野村研究室)
授業科目区分	教養科目－情報科目		
履修区分	選択科目	授業形態	演習
配当年次・学期	2・3 年次前期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 「プログラミング入門」も履修すること。			
授業に関連するキーワード プログラミング、Java、オブジェクト指向			
授業の到達目標及びテーマ オブジェクト指向プログラミング言語の一つである Java 言語のプログラミングを通じ、コンピュータソフトウェアの動作原理を理解し、簡単なプログラムを作成する能力を身につける。また、簡単な図形描画やゲームプログラミングのための基礎的知識、アルゴリズムについて学習する。			
授業の概要 現在、多くのIT企業では、ネットワークと親和性がありプラットフォームに依存しないJava開発環境によるシステム開発が進んでいる。近年は、アジャイル型開発が現場で採用されている場合が多い。このため、小規模の多くの例題を実際にコーディングからデバック作業までを体験することが重要と考える。また、オブジェクト指向プログラミングの重要な概念であるクラスの基本、クラスの機能や利用方法について、具体的な例題を演習する。さらに、アプレット (Applet) を利用しての図形描画方法等を紹介し、オリジナルの作品 (プログラム) の作成を行う。			
授業計画 第 1 回 ガイダンス・プログラム作成から実行までの手順 第 2 回 Java の基本 (画面への出力、文字と数値) 第 3 回 変数のしくみ 第 4 回 式と演算子 第 5 回 分岐処理 (if 文、switch 文、論理演算子) 第 6 回 繰り返し処理 (for 文、while 文、do while 文) 第 7 回 配列のしくみ 第 8 回 Java アプレットの基本 第 9 回 いろいろなアプレット (1) 第 10 回 いろいろなアプレット (2) 第 11 回 クラスの基本 (クラスとは、オブジェクトの作成等) 第 12 回 クラスの機能 (アクセス制限、オーバーロード、コンストラクタ) 第 13 回 クラスの利用 (クラスライブラリ、クラス型変数等) 第 14 回 新しいクラス (継承、オーバーライド等) 第 15 回 特殊なクラス (抽象クラス、インターフェイス等)			
授業時間外の学習内容等 理解を深めるため、毎回、課題を課します。			
評価方法 授業態度 20%、課題点 80%で評価する			
履修上の注意			
テキスト 「やさしい Java」高橋著 (SoftBank Creative)			
参考書・参考資料等 必要に応じて授業中に参考資料・プリントを配布する。			

授業科目名	CGプログラミング CG Programming	担当教員名	野村 松信
時間割	火曜日 2時限	オフィスアワー	金曜日 10時30分～12時 (野村研究室)
授業科目区分	教養科目－情報科目		
履修区分	選択科目	授業形態	演習
配当年次・学期	2・3年次後期	単位数	2単位
<b>前提とする授業科目、密接に関係する授業科目</b> 「プログラミング入門」、「プログラミング演習基礎」の単位を修得しているか、もしくはそれと同等のスキルを有すること。			
<b>授業に関連するキーワード</b> プログラミング, Processing, インタラクティブ			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> プログラミング言語について基礎的知識を持った学習者を対象にした授業である。プログラミングの様々な手法を利用し、新しい表現を実現したいと考えている学生を対象とし、図形描画・画像処理・アニメーション・インタラクション処理などに関する基本的なプログラミング技術およびアルゴリズムを習得する。			
<b>授業の概要</b> 「Processing」は、プログラミング初級者やアーティストに向けたプログラミング言語/環境である。はじめに、図形描画やキャラクターの描画方法を紹介する。次に、様々な種類のデータを扱う手法、アニメーション、インタラクティブ作品の作成方法や画像処理について紹介する。具体的には、変数・繰り返し処理・分岐処理を用いての図形描画処理、マウスやキーボード操作に反応するインタラクティブな作品、3D作品の基本的な作成方法などを紹介する。			
<b>授業計画</b> 第1回 ガイダンス・プログラミング言語「Processing」の基本操作 第2回 描く (Draw) 第3回 変数 (Variables) 第4回 反応 (Response) 第5回 座標変換 (Translate, Rotate, Scale) 第6回 メディア (Media) 第7回 画像処理 (Image Processing) (1) 第8回 画像処理 (Image Processing) (2) 第9回 「Processing」による課題作成 (1) 第10回 動き (Motion) 第11回 関数 (Functions) 第12回 オブジェクト (Objects) 第13回 配列 (Arrays) 第14回 データ (Data Visualization) 第15回 「Processing」による課題作成 (2)			
<b>授業時間外の学習内容等</b> 毎回の講義の終了後には、課題を課します。			
<b>評価方法</b> 授業態度 20%、課題点 80%で評価する			
<b>履修上の注意</b>			
<b>テキスト</b> 「Processingをはじめよう第2版」 Casey Reas, Ben Fry 著 (オライリー・ジャパン)			
<b>参考書・参考資料等</b> 必要に応じて授業中に参考資料・プリントを配布する。			

授業科目名	情報数学入門 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">実</span> Introduction to Information Mathematics	担当教員名	野村 松信
時間割	水曜日 1 時限	オフィスアワー	金曜日 10 時 30 分～12 時 (野村研究室)
授業科目区分	教養科目－情報科目		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	2・3 年次後期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード 情報処理技術, 線形代数			
授業の到達目標及びテーマ 情報処理技術・ソフトウェアの背景にある原理やその基礎となる数学的知識を身につける。具体的には、論理数学、線形代数、数値表現の基礎的知識を習得する。			
授業の概要 システム開発の現場において、プログラミングの基礎スキルとして、数学的思考（論理や集合、行列）は、重要である。論理や集合は、ソフトウェア分野への応用、プログラム言語やデータベースなどの学習に役立ち、また、線形代数のベクトルや行列の知識は、主に図形や画像処理の情報処理技術の理解に役立つ。論理数学では、論理演算と集合演算の共通性に着目しつつ、ブール代数の基本を学ぶ。線形代数のベクトルや行列では、CADやCGの図形の計量や表示、座標変換方法を学習する。数値表現では、2進数や浮動小数点などコンピュータの数表現について体系的に学び、さらに、数値計算における誤差の評価について学習する。			
授業計画 第 1 回 ガイダンス・論理数学（1）命題論理 第 2 回 論理数学（2）論理演算 第 3 回 論理数学（3）集合とは・集合演算 1 第 4 回 論理数学（4）集合演算 2 第 5 回 平面ベクトル（1）ベクトルとその演算 第 6 回 平面ベクトル（2）ベクトルの成分表示 第 7 回 平面ベクトル（3）ベクトルの内積 第 8 回 空間ベクトル（1）空間のベクトル 第 9 回 空間ベクトル（2）ベクトルの内積・外積 第 10 回 空間ベクトル（3）位置ベクトル 第 11 回 行列（1）行列とその演算 第 12 回 行列（2）行列の積 第 13 回 行列（3）逆行列 第 14 回 行列（4）平面の線形変換 第 15 回 数値表現と誤差			
授業時間外の学習内容等			
評価方法 授業態度 20%、小テスト 40%、期末試験 40%で評価			
履修上の注意 講義の最後に確認テストを実施し、理解度を確認します。			
テキスト 「数学入門 2」 桑田・森田共著（サイエンス社）			
参考書・参考資料等 必要に応じて授業中に参考資料・プリントを配布する。			

授業科目名	スポーツと健康 1 Sports and Health1	担当教員名	佐藤 靖
時間割	火曜日 1、2 時限	オフィスアワー	—
授業科目区分	教養科目－保健体育		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2 年次前期	単位数	1 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 到達目標：様々なスポーツの運動学習を通して、生涯にわたってスポーツを生活のなかに位置づけ、明るく健康的な人生を送るための基礎となる知識と技能を身につける。具体的には次のとおり。 (1) 基礎的なゲームを行うことができる。 (2) 基礎的なルールを守っている。 (3) スポーツに関する知識と基礎的な運動技能を身につけている			
<b>授業の概要</b> 講義 10 時間、実技を 20 時間行う。特に実技はスポーツ種目の選択に基づいて行う			
<b>授業計画</b> 第 1 回：ガイダンス，種目選択，受講カードの記入。 第 2 回：講義「スポーツの分類論」 第 3 回：講義「直立二足歩行の現代的問題」 第 4 回：実技，テニス，ピンポンの基礎技能の習得とルールの理解 第 5 回：実技，ピンポン，バドミントンの基礎技能の習得とルールの理解 第 6 回：実技，バドミントン，テニスの基礎技能の習得とルールの理解 第 7 回：実技，テニス，ピンポンのルールの理解と簡易ゲーム 第 8 回：実技，テニス，バドミントンのルールの理解と簡易ゲーム 第 9 回：実技，テニス，ピンポンの発展技能の習得とルールの理解 第 10 回：実技，ピンポン，バドミントンの発展技能の習得とルールの理解 第 11 回：実技，バドミントン，テニスの発展技能の習得とルールの理解 第 12 回：実技，テニス，ピンポンの正規のゲーム 第 13 回：実技，テニス，バドミントンの正規のゲーム 第 14 回：講義「動きかたを身につけるといこと」 第 15 回：まとめ			
<b>授業時間外の学習内容等</b>			
<b>評価方法</b> スキルテスト (50%)：各スポーツ種目について授業時に示す運動技能の到達目標に準拠する。 ゲームの観察 (30%)：ゲームを行うことができるか，ルールを守っているか。 受講態度 (20%)：積極的に練習やゲームに参加し，役割を果たしているか。			
<b>履修上の注意</b>			
<b>テキスト</b> 特になし			
<b>参考書・参考資料等</b> プリントの配付			

授業科目名	スポーツと健康 2 Sports and Health 2	担当教員名	佐藤 靖
時間割	火曜日 1 時限	オフィスアワー	
授業科目区分	教養科目－保健体育		
履修区分	選択科目	授業形態	実習・講義
配当年次・学期	1・2 年次後期	単位数	1 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> <p>様々なスポーツの運動学習に主体的に取り組み、生涯にわたってスポーツを生活のなかに確実に位置づけ、明るく健康的な人生を創造するための豊かな知識と技能を身につけることを目的とする。具体的には次のとおり。</p> <p>(1) ゲームを主体的に行うことができる。</p> <p>(2) ルールを積極的に守り、仲間と協力してゲームを行うことができる。</p> <p>(3) スポーツに関する豊かな知識と運動技能を確実に身につけている。</p>			
<b>授業の概要</b> <p>講義 10 時間、実技を 20 時間行う。特に実技はスポーツ種目の選択に基づいて行う。</p>			
<b>授業計画</b> <p>第 1 回：ガイダンス、種目選択、受講カードの記入。</p> <p>第 2 回：実技、バレーボールの基礎技能の習得とルールの理解</p> <p>第 3 回：実技、バレーボールの基礎技能の習得とルールの理解、および簡易ゲーム</p> <p>第 4 回：実技、バレーボールの発展技能の習得とルールの理解</p> <p>第 5 回：実技、バレーボールの発展技能の習得とルールの理解、および正規のゲーム</p> <p>第 6 回：実技、バスケットボールの基礎技能の習得とルールの理解</p> <p>第 7 回：実技、バスケットボールの基礎技能の習得とルールの理解、および簡易ゲーム</p> <p>第 8 回：実技、バスケットボールの発展技能の習得とルールの理解</p> <p>第 9 回：実技、バスケットボールの発展技能の習得とルールの理解、および正規のゲーム</p> <p>第 10 回：実技、トーナメント戦によるゲームと競技運営法</p> <p>第 11 回：実技、リーグ戦によるゲームと競技運営法</p> <p>第 12 回：講義「球技の分類論」</p> <p>第 13 回：講義「運動発達論」</p> <p>第 14 回：講義「動きかたを伝えるということ」</p> <p>第 15 回：まとめ</p>			
<b>授業時間外の学習内容等</b>			
<b>評価方法</b> <p>スキルテスト (50%)：各スポーツ種目について授業時に示す運動技能の到達目標に準拠する。</p> <p>ゲームの観察 (30%)：ゲームを行うことができるか、ルールを守っているか。</p> <p>受講態度 (20%)：積極的に練習やゲームに参加し、役割を果たしているか。</p>			
<b>履修上の注意</b>			
<b>テキスト</b> <p>特になし</p>			
<b>参考書・参考資料等</b> <p>プリントの配付</p>			